

### 1. JICA カンボジア事務所/JICA プラザカンボジア訪問

（オリエンテーション・安全/健康対策ブリーフィング・資料収集）

カンボジアの国概要、同国における JICA の支援/協力方針などについて、統計資料を基に知ることができた。地雷よりも交通事故での死亡者が多い事実や、“カンボジア＝地雷”だけのイメージではなく、現在は多くのドナーの援助を受けながら復興・開発が進んでいることを知った。



### 2. 市内見学・現地マーケット視察(教材収集)

プノンペンでは一番大きい市民の市場「セントラルマーケット＝中央市場」、「ロシアンマーケット」、シェムリアップでは「オールドマーケット」を視察し、研修に必要な物や帰国後の授業実践教材として活用できる資材等を購入した。その他、プノンペン市内見学として独立記念塔、王宮、セントラルマーケット、バンカックレイク付近の低所得者層の居住地や旧ゴミ処理場(2年前に閉鎖)等も車中から見学し、貧富の差が広がっている現実を知る機会となった。



### 3. JICA 無償資金協力 ※1

船上より無償資金で建設された施設見学

日本の ODA で建てられた日本カンボジア友好橋を見学した。日本の技術力の高さと支援の効果を改めて知った。



### 4. JICA 技術協力 ※2

カンボジア日本人材開発センター(CJCC\*)視察と交流

CJCC の事業概要説明の後に、日本語コースの大学生約 20 名と文化交流をおこなった。わずか3～4 年程の学習で日本語を話すことができる学生が多く、彼らの学習意欲の高さに感心させられた。また、交流を通して逆に海外の人々が抱く日本および日本人のイメージを客観的に知る良い機会となった。

\* Cambodia-Japan Cooperation Center の略



### 5. JICA 草の根技術協力 ※3

#### 特定非営利活動法人 シェア＝国際保健協力市民の会

同 NGO がスバイアントー郡保健行政区でおこなっている「農村地域におけるコミュニティ母子保健プロジェクト」の活動現場を見学した。日本の NGO がカンボジアの小さな村にまで入り、学校教育でカバーできない保健・保育教育に取り組んでいることに感銘を受けた。最終的には、“自立”という当事者だけで活動を続けることができる体制作りが必要である点を学び、日本の国際協力の真髓を垣間見た。



### 6. 世界遺産 アンコールワット 遺跡見学

世界遺産であるアンコールワット、アンコールトム（バイヨン寺院）、タプロムなどを見学した。権力と民、それぞれの想いが交錯した悠久の歴史が現存する地に、畏敬の念を感じた。



### 7. スバイクエ(影絵)/アプサラ(カンボジア伝統舞踊)の鑑賞

夕食をとりながら、スバイクエ・アプサラを鑑賞した。ポルポト政権時代に、踊りの先生や生徒の多くが処刑の対象となり、振り付けなどが記録された書物もほとんど消失したといわれている。その踊りを今回間近で観ることができ、深い喜びを覚えた。



### 8. NGO クメール伝統織物研究所 伝統の森 視察・宿泊・交流

元京都の友禅染職人の森本さんが、カンボジアの伝統織物復興のためにつくった村“伝統の森”を、1泊2日で視察した。夕食も含め森本さんの活動や今までの経緯についてお話を聞き、「伝統は守るものではなく、創るもの」の言葉には、彼のこれまでの苦労と挑戦の連続の中で生まれた信念を感じ取ることができた。また、外ではニワトリが走り回る中、かまどでご飯を炊き、そして家族とご飯を食べて団欒する、そんな昔の日本を思わせるような生活を垣間見た。



### 9. カンボジア地雷対策センター(CMAC\*)博物館 視察

カンボジアの地雷と不発弾撤去に関する今までの取り組みについて詳しい説明を聞き、地域による配置状況や撤去の進行状況を理解した。人間にどのような障害を負わせるかを計算して安く・簡単に作られた道具である地雷を前に、胸が痛む思いだった。

\* Cambodian Mine Action Centre の略



### 10. JICA ボランティア活動現場視察

分野: 教育行政/母親教室(就学前教育)

シェムリアップ州教育青年スポーツ局を視察し、教育行政・幼児教育の現状の説明を受けた。その後、ソトニコム郡クチャ村において、シェムリアップ州教育局職員の同行の下、就学前教育である母親教室(民家の敷地の一部を利用)で、実際に子どもたちが歯みがき指導を受ける様子を視察した。母親同士が知恵を出し合い、協力しあって子どもたちを育てていく現地のシステムは、現代の日本社会にも必要だと思った。



### 11. 識字教育現場(日本ユネスコ協会)視察

トンレサップ湖畔の水上生活者の集落に向かい、夜間の識字教室を視察した。参加者の多くは子どもだったが、暗い建物の中、電球一つの灯りの下で学習する風景を見学し、子どもたちの学ぶ事に対する意欲の高さがうかがえた。



### 12. NGO カンボジア日本友好学園 コン ボーン氏講演

カンボジア難民として日本に在住した後、母国でカンボジア日本友好学園を設立し、カンボジアの子どもたちの教育に携わっているコン・ボーン氏の講演を聞いた。内戦中に壮絶な逃亡を経験した者にしか語れない事実を聞き、「許しあい、理解し合うこと」の大切さ、そして過去の事実を伝え未来を創り上げようとしている彼の姿勢に感銘を受けた。



13. JICA 草の根技術協力 ※3 ワットポー小学校  
 (音楽教育を活用した教員の授業実践の向上プロジェクト)

シェムリアップ市内中心にあるマンモス校であるワットポー小学校を視察し、子どもたちとの文化交流をおこなった。同校には、青年海外協力隊小学校教諭としてワットポー小学校に赴任した田中千草さんが協力隊の任期を終えてからもワットポー小学校で活動し続けている。子どもたちによる素晴らしい音楽演奏の歓迎に、参加者一同感動。一見いわゆるエリート校にも見えるが、実際には制服も買えない状況の家庭も多い事実には驚いた。全生徒の保護者に教育の大切さを伝えるために、1カ月の間に60回かけて保護者会を行った事実を知り、この学校の活気とドロップアウトの少なさの背景には相当な苦労があったことを知る。支援に頼り切らず、『自分達の手で、自分達の未来を』をモットーに取り組んでおられる先生方の姿勢に敬服した。



14. トゥールスレン虐殺博物館見学

1975-79年のポルポト政権下で起きた虐殺の歴史を現代に伝えるための博物館(元政治犯の収容所)を見学した。博物館の展示方法について、沖縄県の平和祈念館が支援をしており、何度も研修が行われていることも分かった。内戦からまだ30年程度しか経過していないことから、虐殺がまだ過去のものとなっていない現実に改めて考えさせられた。



15. JICA カンボジア事務所 研修報告会

JICA カンボジア事務所の鈴木所長、日本の文部科学省からカンボジア教育省に派遣されている大野専門家同席のもとで、研修報告会がおこなわれた。海外研修を振り返り、印象深かったこと、帰国後に各学校での授業でどう活かしていくかを報告した。



※1 JICA 無償資金協力とは・・

開発途上国に対する返済の義務を課さない資金協力。開発途上国の中でも、所得水準の低い諸国を中心に、橋や病院の建設等、将来関わる協力をおこなっている。

※2 JICA 技術協力とは・・

技術協力プロジェクトは、JICA 専門家の派遣、研修員の受入れ、機材の供与という3つの協力手段(協力ツール)を組み合わせ、一つのプロジェクトとして一定の期間に実施される事業。

※3 JICA 草の根技術協力とは・・

日本の NGO/NPO や地方自治体等が、これまでに養ってきた経験や技術を活かして企画した開発途上国への協力活動を、JICA が支援し共同で実施する事業。